

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①生徒の柔軟な学びに配慮した教育課程により、個別最適な学びを学校全体で推進 ②誰一人取り残すことなく、多様な教育ニーズに即した支援の充実	①オンラインレポート提出率および単位修得率の低下を招かぬよう学校全体で組織的に対応していく体制を整える。 ②キャッシュレス化した受講手続きの効率的な運営に取り組む。	①視覚効果を活用したわかりやすい生徒用マニュアルの作成や、生徒向けのオンラインレポート操作説明会を開催とともに、職員向けのマニュアル作成や研修会も丁寧に実施する。 ②4月の受講手続きで挙げられた課題を整理し、前例にとらわれることなくよりよい方法を検討する。	①マニュアル作成や説明会、研修会を実施することで、レポート提出率および単位修得率を維持、もしくは向上できたか。 ②10月もしくは次年度の受講手続きに向けて、よりスムーズな手続きシステムを構築できたか。
2	生徒指導・支援	①生徒が安心して学べる教育環境を維持する。主体的に取組む意識の醸成をめざした教育活動の充実 ②生徒が自己を尊重し、自らの力を十分発揮できるよう個別最適化を図り、充実した学校生活の実現	①全職員に対し生徒指導規定の周知や本校における生徒指導基準の共通理解を図る。 ②生徒が参加したくなるような行事を企画・運営し、教育活動の充実を図る。 ②常に生徒情報を更新し、内容の把握と共有に努め、生徒一人ひとりに適切かつ効果的で継続的な支援を行えるように一層の整備を行う。	①生徒指導研修を通して、本校の生徒指導方針を周知する。担任が積極的に関わる指導を再構築し、生徒理解を深められるようにする。 ①文化祭、交流旅行などの活動を活性化させ、生徒の参加率を向上させる。また、生徒が主体となって活動できる環境整備をする。 ②新規事業等により学習および生活上の支援を要する生徒を見極め、必要な支援を積極的に図る。また、悠ルームを生徒が有効活用できるようにAIボットの利活用等を工夫する。 ②教職員、SC・SSWおよび教育支援専門員等の情報共有と有効活用のためにデータベースの情報を常に最新のものに更新する。またSC、SSWに併せてメンターリング制度の周知や外部機関等との連携を密にし、組織的に生徒支援を行えるように努める。	①生徒指導研修で共通理解を図ったことが、年間を通して全職員に周知し、組織として対応できたか。 ①行事ごとに生徒にアンケートを実施し、生徒の活動の充実度がどの程度あったか。 ②悠ルーム・放課後居場所カフェ等の利用者の集計やそこでの情報を活用できたかをアンケートにより確認する。 ②教職員が様々な情報をデータベース上に速やかに入力を更新するように努めていたか。またその情報を必要な支援に活用できたか、SC・SSWおよび外部機関に必要に応じた相談を受けさせることができているか。また、その情報や相談を支援に繋げ、組織的に取り組めたかをアンケートにより確認する。
3	進路指導・支援	①生徒が将来を考え、自分の適性に合った実現可能な進路選択を行い、行動できるようサポート体制の強化 ②生徒個々の可能性を広げ、社会的自立に向け、生徒が興味関心を持ち積極的に活動できる支援体制の充実	①横浜中地区のインターフィップへの取組みや就職前インターフィップを実施し、自分に適した就職支援を行う。 ②進学アドバイザーの利用や各種説明会等の参加を増やす。また「進路・進学探究」プログラムを充実させる。 ②個々の生徒の特性に合わせて、成長に寄与できる通級指導のあり方を考え、生徒自らが、将来の自己実現を考えられるような活動を行う。また、関係機関等と積極的に連携し、一層効果的な支援を行う。	①事前説明会や修悠館通信、マイページのお知らせ等に載せ、周知活動を徹底して行い、参加者を増やす。 ①民間企業と連携した「進路・進学探究」プログラムの参加者を増やすため、予算化し、希望者が確実に活用できる環境を整える。また、進路未定者への方策を検討する。 ②通級に参加している生徒を含め特別な支援が必要な生徒等が自らの希望に沿った進路実現のためにインターフィップ・就業体験等を行い、保護者と協働して卒業後の進路を考えられる支援を行う。 ②校内での情報共有と共通理解を図るとともに、関係機関等との連携をより一層深め、適切かつ的確な支援に努め、生徒が希望する進路実現に挑む力を育む。	①より多くの参加者に支援ができ、就職活動率や内定者数が高まったか。また、就職前のマッチング指導を実施することで、効果的な影響があったか。 ①各進路説明会等の参加者に充実した支援ができたか。また、プログラムの運営に満足できたか。支援の充実で未定者の割合が変化したか。 ②自校通級・他校通級に参加している生徒・保護者の希望を確認し、スムーズな進路活動に向けた取り組みや活動ができたかを進路状況や生徒・保護者の振り返りから確認する。 ②生徒一人ひとりの支援について、必要な関係機関等と顔が見える関係作りや連携が取れたか。また、生徒自身が自らの進路に対して積極的かつ具体的に考えることができたか。

	視点	4年間の目標 (令和2度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	①地域や近隣の小中学校等と連携し、協働の体制を構築することで、地域に貢献し、地域から信頼される学校づくりの推進	①地域の力を本校の教育活動に生かすとともに、地域の行事への参加を通して地域に貢献する。	①地域との協働に関する行事の一覧表を更新しながら、校外で活動する団体に声掛けを行い、情報発信の回数を増やす。	①地域との協働に関連した行事や教育活動に関して作成した修悠館フラッシュが昨年より増えたか、また活用できたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒の自己実現に向けた主体的な活動をサポートする環境整備とサポート力の向上 ②教育環境の変化によりよく対応しようとする教職員体制の充実 ②働き方改革を推進し、教職員の力を最大限に発揮できる環境を整備する。	①実践的なオンラインスクーリングの運用を目指す。 ②様々な災害に即応できるよう教職員を再配備し、生徒の防災意識向上を目指す。 ②働き方改革を推進し、教職員の力を最大限に発揮できる環境を整備する。	①スクーリングの配信について有効的な活用方法を模索する。様々な活用方法を想定し、知識とノウハウをシェアする。 ②本校の役割を再確認し、教職員の再配備をする。最新の防災の知識を取得し、訓練等を通じ生徒に還元する。 ③諸々の手続き等のオンライン化を促進し、生徒に費やせる時間を創出する。	①オンラインスクーリングの視聴数と生徒の満足度がどの程度であったか。教員の気づいた点や技術などをまとめたものを作成できたか。 ②災害時の新しいマニュアルの作成に着手できたか。防災訓練のアンケート調査を行い、防災意識の高まり、防災知識の習得を促進できたか。 ③生徒により寄り添う時間の創出ができたか。